

コミュニティスクールだより

令和6年度 第2号

氷室のかぜ

そお小学校学校運営協議会
(事務局 そお小学校)
電話 85-0207

開校150周年によせて

新宮 樋口 正行

本校は、明治7年(1874)4月に、新宮の庄屋河田家の建物を借りて始め、その後、地域の寺が教えの場となり、今日まで幾多の校名変更や移管等の変遷を経て、150周年を迎えることができました。この間、多くの子どもが巣立ち、それぞれの分野で活躍しておられます。

11月9日、毎年育友会が中心に行っている「三世代ふれあいフェスタ」が開催されました。児童の音楽発表や地域の方との楽しいふれあい会、児童の餅つき後は、楽しい昼食をいただきました。

また、150周年記念イベントとして、参加者全員が一つの輪になり踊った「祖生小唄」、ドローンによる「人文字の撮影」も行いました。まさに、150周年にふさわしい行事で、児童や保護者、地域みなさんにとっても、今後の思い出に残る楽しい一日になりました。

開校150周年記念行事にご尽力をいただいた、教職員及び育友会、そして「祖生小唄」をご指導いただいた地域の皆様に謝意を申し上げます。



校長 古屋 郁子

今年の初め、「150周年という記念の年、祖生地区で育っている子どもたちだからこそ感じられる『心の宝物』を見つけて欲しい」という思いで始まりました。そんなとき、現在のそお小学校の校歌が旧祖生東小学校校歌からメロディを受け継いでいること、祖生地区には祖生地区の誉れがたくさん唄われている「祖生小唄」があるということを地域の方からお伺いしました。

「子どもたちにも是非、伝えていただきたい。」と、地域の方をお願いしたところ、快く引き受けていただき、旧祖生東小学校・旧祖生西小学校、現在のそお小学校の校歌にまつわる話や「祖生小唄」の誕生から現在に至るまでの経緯を子どもたちに話してくださいました。また、両校の校歌や「祖生小唄」の踊りも教えてくださいました。

おかげさまで、「三世代ふれあいフェスタ」や「ふるさとまつり」では、子どもたちが地域の方々や保護者の方々と一緒に歌ったり踊ったりすることができました。

貴重なお話を聞くことができたこと、両校の校歌を歌ったり「祖生小唄」を踊ったりしたこと、みなさまと一緒に笑顔でふれあえたことなどなど…、子どもたちにとって『心の宝物』になりました。

これまで支えてくださった地域の方々、育友会執行部を中心とした保護者の皆様、すべての方々にこの場をお借りして、心から感謝申し上げます。



学校は、これからも「学校に関わるすべての人（子ども、保護者、地域、教職員）幸せにする学校づくり」を目指して参ります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

育友会会長 村上 昭裕

そお小学校「三世代ふれあいフェスタ」に関わっていただいたすべての皆様に、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

このイベントに向けてがんばった子ども達、教職員、保護者・地域の皆様に、たくさんのお礼の言葉を伝えていければと思います。

子ども達による音楽発表は素晴らしい歌声で、この日のために練習をがんばってきた成果が出ていました。交流会では、地域の皆様と一緒に子ども達が楽しんでいる光景が印象的でしたし、餅つきも親御さんや地域の皆様と子ども達が楽しそうにお餅を作ること



祖生が一つになれた気がしました。ドローン撮影でも、子ども達、教職員、保護者地域の皆様の協力で、大人数で人文字ができ、150周年記念として素晴らしい作品ができたと思っています。

そして、これからもそお小学校が素晴らしい学校で有り続けるためにも、皆様のご支援、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

そお小学校開校150周年を迎えて（パート2）

西光寺 河野 順司

明治期に尋常小学校の6年制が確立され体制的には整えられたが、大正以後は中等学校以上の各種の校種設置や充実拡大が実施されている。この玖珂周東管内では、近隣に山口県立岩国中学校および私塾である高水村塾（後の高水中学校）があった。そして、注目すべきは玖西盆地で女学校の設立の世論がたかまり、大正3年、私立高森裁縫女学校が設立された。女子の場合は、各自の家庭から通学が可能で、学費も多くなく近くの施設でなければ、教育の普及は望めないという思いがあった。大正期には、男女とも裕福な家庭の子しか進学はできなかったと思われる。その後、昭和9年、岩徳線の開通により岩国中学校や高水中学校の通学が可能となり、より多くの人が進学できる環境となった。また、昭和19年には玖西五カ所町村組合立の女学校から県立移管され、県立高森女子農業学校となった。大きな戦争の渦に巻き込まれた時代ではあったが、教育の大切さを忘れずに地域に根ざした活動に対して頭の下がる思いである。祖生地区に目を向けると、昔から寺が多く、僧侶の数も人口の割には多い場所であった。当然、何らかのことで、村民は読み書きとの出会いがあったと思われる。江戸後期には、寺子屋や私塾もあり、学問の開けた土地柄であったと言える。そお小学校開校150周年を迎えた今年、学校においても、地域においても、子どもたちにとって、自分のもっている能力に気づける環境であってほしいと切に思う。歴史や伝統的な行事の伝承、豊かな自然をしっかりと観察するふれあい、地域ぐるみのあいさつ運動など、地域のみなさんと一緒になって祖生の宝物である子どもたちを見守り続けていしましょう。



上祖分校(現在祖生東小学校)



下祖分校(現在下祖保育園)

<写真：祖生村郷土誌より>

祖 生 小 唄

末南 神尾 奈保美

「祖生小唄」は、「祖生地区の誉れを唄にしよう」という村長の発案で制作が始まりました。詞は一般に向けて募集したものの中から、井上薫さん（祖生小学校教諭）のものに決まりました。祖生の旧所、名跡がすべて唄い込まれた素晴らしい唄です。そして、初めのうちは当時流行っていた音頭に合わせて唄っていたとされています。その後、歌詞の繰り返しや合いの手を加えより唄いやすく、また、踊りやすく手直しされ、何時でも、何処でも、誰でも歌えるよう、また踊れるようにと楽譜も整備され、祖生地区の誇るべき伝統文化となりました。

一時途絶えていた盆踊り行事が昭和五十年頃に復活するのに合わせ、各地区で行われた盆踊り大会や毎年開催される祖生地区大運動会でも踊られ、今日に至っています。



「靄の中から平和の美鈴・・・」という幻想的な唄い出しで始まるこの唄を聞く度に、これからも祖生地区の子どもたちに、絶えることなく末永く唄い継ぎ、踊り継いで欲しいと思わせる唄です。

旧祖生東小学校・旧祖生西小学校の校歌

落合 西村 芳子

「三世代ふれあいフェスタ」は、旧祖生東小学校と旧祖生西小学校の校歌で始まりました。

百五十周年の歴史の中で、昭和三十二年東西小学校開校の時、初めて校歌ができました。祖東小学校の校歌は、歌詞は初代校長の鈴川治人先生、作曲は祖生中学校音楽教師の長谷川たまみ先生です。短い歌詞の中に込められた^{まなびや}学校への想い、その歌詞につけるメロディを長谷川先生の指導のもと、何度も何度も歌ったことを、当時六年生だった方が話してくださいました。

祖生西小学校の校歌は、作曲は岩国市のクラシック作曲家の福島^{すなお} 淳先生、作詞は一般公募で下東の藤岡八重子さんです。藤岡さんは、子どもたちが、島田川の地をも穿^{うが}つ力を持ち続けながら「清く・正しく・美しく」成長してほしいという気持ちを歌詞に託されたそうです。

児童のみなさんにとっては初めて聴く両校の校歌ですが、毎朝すてきな歌声が聞こえていました。当日、私も保護者や地域の方と一緒にうたいながら、ふと、「この百五十周年がなかったら校



歌を歌うこともなかったのでは！」と思い、懐かしい気持ちでいっぱいになりました。

そお小学校の校歌は、開校の時、祖生東小学校のメロディを少しアレンジして、六年生を中心にみんなで歌詞を考えて作りました。

年々児童数減少の中、そお小学校の校歌がいつまでも歌い継がれますように！と、心から願っております。

ようこそ先輩！ In そお

「ようこそ先輩！ In そお」を終えて



末北 山崎 哲也

身近にある自然、祖生の環境、これからの農業等、たくさん伝えたいことがありこれに興味を持ってもらうために画像・動画を駆使し、子供らが飽きないように話を進めたいと思っていました。

しかし、この心配をよそに、話の合間合間の質問、質の良い返事、動画への関心を見せてくれました。

子供らに、「祖生の自然環境は先輩方（おじいちゃん、おばあちゃん、両親ら）が守ってくれたから、暮らしやすい祖生地区があるんだよ。」という思いを伝えられたように感じます。

地区の高齢化が進んでいく中で、この子らの世代に残せる祖生にしたいと改めて思いました。

稲刈りを体験

泥まみれになりながら、悪戦苦闘の田植えより早4ヶ月、黄金色のたわわな稲穂のついた稲刈りを体験しました。

5年生・6年生全員でそれぞれの想いを絵にし、素晴らしい看板に道行く人の目を引きました。

稲刈りの当日はあいにくの小雨で、短時間に作業が終了するよう、皆で知恵を出し合い、一株一株、鎌で慎重に刈り取り、稲を束ねる作業に苦戦しながらも、やっとできた稲束に喜びもひとしおで、「できたよ。できたよ。」と、あちこちで声が上がり、最後に全員で稲束を掛け終えた安堵に笑顔がいっぱいになりました。

何気なく、当たり前食べるご飯ですが、この様な大変な作業があることを学んだよい体験になり、子どもたちの思い出となったことと思います。

田植えから脱穀まで、田んぼをお世話くださいました山中様を始めご協力いただいた皆様にお礼申し上げます。



<編集後記>

皆さまのご協力のおかげで、第2号も無事に発行することができました。ありがとうございます。

学校創立150周年の年、2学期も子どもたちと共に、たくさんのことを学ぶことができました。校歌や祖生小唄の由来も学び、改めて大切にしていきたい文化の一つだと感じています。

「3学期もどんな出会いや学びがあるかな！」と、楽しみです。

令和6年もあとわずかです。よいお年をお迎えください。

氷室のかぜ 編集部一同